



「人知無限」の社是のもと、エンジン事業を中核として建設機械・クレーンや産業機械などの修理・メンテナンスや販売事業を展開している株式会社筑豊製作所。同社の顧客は、大手企業から中小企業をはじめとして、官公庁まで幅広く、業界トップクラスの技術力で日本のものづくりの現場を支えている。また、ディーゼルエンジンなどの整備事業では、警備艇や監視艇などの検査や修理に携わる機会も多い。そのため、今後予想される官公庁などの情報セキュリティ基準の強化に対応するために、同社の総務部システム課では旧世代のエンドポイントセキュリティから、Sophos MDR Completeへの入れ替えを行った。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



株式会社 筑豊製作所

本社所在地 〒811-0196

福岡県糟屋郡新宮町の野741-1

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Complete



検知性能と監視体制に保証制度という3つの点で、Sophos MDR Completeが当社の求めているセキュリティ対策だと実感しました。

株式会社 筑豊製作所
総務部システム課 課長代理
田中 青春 氏

昭和21年にディーゼルエンジン整備工場として創立された株式会社筑豊製作所。翌22年にはブルドーザ、油圧ショベル、機関車の整備を開始し、一般企業から官公庁まで、幅広い顧客の機器を整備してきた。約230名の従業員は、エンジン整備技能士などの高度な技能と高い専門性を持つ技術者が多く、日本のものづくりの現場を整備力で支えている。また、同社の総務部システム課では、少数精鋭のシステムエンジニアが社内システムや情報セキュリティ対策に携わってきた。そして、急増するサイバー攻撃の脅威から社内システムを守り、顧客からの信頼度を高めるために、Sophos MDR

Completeを導入し、強固な情報セキュリティ対策を実現した。

ビジネスチャレンジ

「官公庁などの厳しい情報セキュリティ基準を想定した対応が急務」

株式会社筑豊製作所がSophos MDR Completeを導入した背景について、総務部システム課で情報セキュリティ対策に取り組んできた田中氏は、次のように切り出す。「以前は、旧世代のエンドポイントセキュリ

ティを社内のPCにインストールしていました。過去にマルウェア感染やインシデントに発展するような被害はなかったのですが、旧世代のセキュリティ対策を使い続けることに不安は感じていました」。

同社には、高度な整備技術を習得した技術者が数多く働いている。技術に精通した社員がいる一方で、「多くの社員は業務でPCを使いこなしてはいますが、情報セキュリティに関する意識は、一般の企業と大きな違いはありません。また、システム課のスタッフも限られていたので、情報セキュリティ対策の専門家といえる人材はいませんでした」と田中氏は説明し、「当社の取引先

には、大手企業や官公庁なども多く、そうした顧客の求める厳しい情報セキュリティ対策の基準に対応していくためには、次世代型のエンドポイントセキュリティを導入する必要があると考えていました」と当時の課題を振り返る。

テクノロジーソリューション

「数社のセキュリティ製品を比較してMDRサービスへの高い信頼性で導入を決定」

次世代型エンドポイントセキュリティの選定にあたり、田中氏は「ITパートナーのリコージャパンに相談しました。すると、数社の次世代型セキュリティ製品を紹介してもらったのですが、そのひとつにソフォスがありました。そして、リコージャパン主催のソフォスのセミナーに参加させてもらい、そこでSophos MDR Completeに対する理解を深めました」と経緯を話す。

Sophos MDR Completeの説明を聞いた田中氏は「3つの点でSophos MDR

Completeが、当社の求めているセキュリティ対策だと実感しました。まず、Sophos Intercept Xの高い検知力と防御力が魅力でした。旧世代のパターンファイルによる検出だけではなく、AIなどの多層防御を活用した次世代型のエンドポイントセキュリティなので、未知のウイルスや怪しい振舞いも検知して防御できる性能に注目しました。2つ目は、Sophos MDR Completeによる24時間365日のサポート体制が魅力でした。セキュリティの専任者がいないシステム課にとっては、理想的なサポート体制です。そして、3つ目は保証制度への信頼度でした。もしも被害に遭ったときに保証される、という安心感よりも、これまで一回も保証が行われたことがない、という『被害ゼロ』の実績を信頼しました」と選定の理由を語る。さらに田中氏は「旧世代のエンドポイントセキュリティと比較すると、Sophos MDR Completeは監視と復旧のサービスも含まれるので、コストは上がります。しかし、官公庁などを担当する部門からは『投資するだけの意義がある』と認めてもらいました。また、社長も情報セキュリティ対策の

強化に求められるコストには理解があるので、Sophos MDR Completeの申請はスムーズに通りました」と補足する。

ビジネスインパクト

「情報セキュリティの専門家からもSophos MDR Complete採用を高く評価される」

Sophos MDR Completeの導入は、2023年4月からスタートした。旧世代のエンドポイントセキュリティからの入れ替えについて、田中氏は「社員が利用しているPCへのSophos Intercept X導入は、順調に進みました。インストール後は、Webサイトのフィルタリングが強化されました。セキュリティ対策の観点からは、危険なサイトにアクセスするリスクが低減されて安全になったと思います。しかし、営業担当が接待用の店を検索しようとする、一部のサイトが開かなくなりました。そこで、ソフォスのサポートに相談して、フィルタリングの基準をシス

テム課で調整できるように、設定方法を教えてもらいました」と話す。

また、新たに総務部システム課に配属されて、Sophos MDR Completeの運用を担うことになった竹末氏は、管理面での使い勝手を次のように評価する。

「Sophos Centralを開いたときに表示されるSophos ダッシュボードは、重要な情報を一目で把握できるので、問題が起きているかどうかを判断するのがとても分かりやすくなりました。また、メールによる通知も活用しているので、Sophos ダッシュボードの確認は、朝の一回だけで済むため運用の負担もまったく感じていません。もしも、何かあればMDRサービスに対応してもらえるので、運用面での安心感につながっています」。

さらに、田中氏は「社長が知り合いの情報セキュリティの専門家に『Sophos MDR Completeの導入』を話したところ、『すごく良いセキュリティ対策を導入しましたね』というお褒めの言葉をいただいたそうです。システム課としても、選んで良かったと実感しました」と補足する。



株式会社 筑豊製作所
総務部システム課
竹末氏

フューチャービジョン

「社員のリテラシー向上にITパートナーとソフォスの協力を期待」

Sophos MDR Completeの活用と今後に向けた取り組みについて、田中氏は「リコージャパンには親身になって相談にのってもらい、Sophos MDR Completeを導入できたことは、とても良かったと思

ます。今後は、Sophos Intercept Xの設定やSophos Centralの使いこなしに向けて、機能を理解していこうと考えています。また、社員の情報セキュリティに対するリテラシーの向上も図っていきます。eラーニングや研修などを通して、一人ひとりがサイバー攻撃などのリスクを意識するようになれば、安全性を向上できると思います。情報セキュリティ対策に関する教育や訓練などに関しても、リコージャパンやソフォスから最新情報やサービスを提供してもらえたらと期待しています」と展望を語る。

